

改善の仕方講習会の要約

各回 2 時間

回	目 的	強 調 点
第 1 回	<p>顧客の欲するものやサービスを、スムーズに効率よく供給する体制を整え、厳しい企業間競争に打ち勝つためには、「生産効率を上げる」という一点に帰着することを示し、それが監督者の責務のひとつであることをはっきりさせる。</p> <p>生産効率を上げるための手段として、「作業の改善」が非常に有効である。この原則とである「改善の4段階」を提示する。</p>	<p>現在の方法、新方法の実演提示を正確に行い、作業改善の進め方として、4段階の的確な内容説明にポイントを絞る。</p>
第 2 回	<p>実演の目的を示し、受講者の実演を通して、「改善の仕方の4段階」の原則がどう適用されるかを観察させる。</p> <p>カードの「第1段階：作業を分解する」を強調し、練習させる。</p>	<p>作業分解を完全にやり、知識や着想を得てのち、はじめて改善は成功すること。（作業分解が不完全であると、着想欄に良いアイデアが出てこない）</p>
第 3 回	<p>細目に対する六つの自問を練習させる。</p> <p>カードの「第2段階：細目ごとに自問する」を強調し、実演者に第2段階の自問をしながら、直接答えさせる。（トレーナーは、案内役として自問を進める）</p> <p>実演終了後に受講者に簡単な討議をすることを予告し、実演をよく観察させる。</p>	<p>第2段階では、改善に対する知識を集めているのであること。</p> <p>最もよい改善は、注意深く完全に自問をすることによって、はじめて展開されること。（各細目について、六つの自問の重要性）</p>
第 4 回	<p>実演の意義を再確認させる。</p> <p>実演をやらせ、「改善の仕方の4段階」を練習させる。</p> <p>カードの「第3段階：新方法に展開する」を強調し、第2段階と第3段階の関係について説明し、検討させる。</p>	<p>第3段階を実行することにより、現存の労力・機械、および材料を最も有効に使うことになり、短時間に、よい品質のものを多量に生産することができること。</p> <p>協力者に対する感謝、他人の功績を認めることの重要性。</p> <p>改善を求め続けることが非常に重要であること。</p>
第 5 回	<p>実演をやらせ、「改善の仕方の4段階」を練習させる。</p> <p>新方法が完全に実施されるための留意点が、カードの「第4段階：新方法を実施する」であることをカードの項目に従って検討させる。</p>	<p>新方法を正しくやらせるためには「仕事の教え方」の技能が重要であること</p> <p>あらゆる仕事の改善の原則は、このカードにすべて書いてある。したがって、カードはいつも身につけていなければならない。</p> <p>第一線の監督者として、主役となって改善を進めてゆく責任があること。</p>